



## 同日同店で競争

もう一つ、比較方法がある。同じ時刻に同じ店で複数のカードを使って相対評価する方式を試した。米国amazonでギフトカードをチャージして試している。これなら観測個数を増やすのが簡単だ。

- 上記、TTMと比べる方式には問題もある。いつのTTMと比べるかだ。「換算日」は一つの基準になるが「換算日」が非公開のカードの方が多だろう。また換算日のTTMが休業日で取得できないことも少なくない。そもそも、比較する日が利用日から離れば離れるほど、為替変動のリスクが大きくなる。（ちなみに、手持ちのデータの範囲では、換算日の出ないカードは利用日と（非公開の）換算日の乖離が大きいと推測できる傾向があった。ただし、観測個数が少なく、仮説の域を出ない。）では利用日のTTMで比べたらどうか。それなら為替変動リスクを排除できる。もちろん、利用日のTTMが手に入らないこともあるし、どの銀行のTTMを使うか、その他の課題はある。しかしそれは決めの問題であり致命的ではない。問題は、何かからの絶対評価と、相対評価（ただし同じ時刻に同じ店で複数のカードを使うという特殊な条件を満たす必要がある）と、いずれが納得感があるかだ。
- ちなみに、実験開始当初は間隔を空けずに連続的に複数のカードを使ったが、8順目でカードブランド（Master）から承認拒否された。拒否したのはamazonや日本のカード会社ではない。カード会社に自分から電話して照会したら、カード会社側にはデータが来ておらず、従って拒否もしていないし、何も情報がない、とのことだった。Masterのカード（発行会社は違う）だけ拒否されたので、Master側（段階というべきか）の拒否判定だと推測できる。Masterが拒否するとカード発行会社にも情報が（少なくとも利用日前後の時点では）行かないようだ。（一定期間でまとめて報告されることはあるかも。）

現時点の観測範囲では次のような結果になる。これは適宜更新する。とりあえず、ANA MasterとANA VISA Suicaの比較では、VISAの方が手数料が高いと言える。どちらも三井住友カードだ。JCBの数字は誤差がまだ大きめであり、何とも言えない。

	相対		TTM比		観測個数
ANA Master	0.00%	±0.00	1.39%	±0.17	7
JAL DC Master	-0.25%	±0.64	1.41%	±0.81	7
ANA VISA Suica	0.24%	±0.16	1.71%	±0.15	7
ANA PASMO JCB	-0.02%	±0.35	1.57%	±0.08	5

右は従来のTTMとの比率（いわば絶対評価）。左はANA Masterとの相対評価。各カードの請求書記載の「換算レート」（これは必ず載っている）を比較している。

- 見ての通り、JAL DC Masterの誤差が非常に大きく、統計的に意味がない。（その結果、JAL DC Masterを加えて「Master, VISA, JCB」という比較をすると統計的に意味がなくなってしまう。）JAL DC Masterの誤差が大きいのは、換算日（これは非公開）が利用日から（大きめに）離れているか、（そもそも）一定しないか、その両方か、いずれかだと推測する。ANA Masterとブランドは同じであるから、換算日が同じであればレートも同じになるはずだが、この通り全然同じにならない。
- JAL DC Masterの分散を人為的に小さくすることもできそうな感じ。利用日と換算日（早ければ翌日）が、日本と米国いずれの休日にもかからないように利用すればよい。しかし、実際の買い物行動とは離れてしまう。ここではそういう操作はしていない。

Last-modified: 2018-05-12 (土) 00:13:06 (12h)

Site admin: [admin@6pb.info](mailto:admin@6pb.info)

PukiWiki 1.5.1 © 2001-2016 [PukiWiki Development Team](#). Powered by PHP 7.0.30. HTML convert time: 0.041 sec.